

SOFTUNE **W**ORKBENCH

RAMチェックViewer マニュアル

目次

1. はじめに.....	3
2. メイン画面.....	4
2.1 経過時間表示.....	6
2.2 トリガポイント表示.....	7
2.3 データロスト表示.....	8
2.4 ステータスバー.....	9
2.5 表示状態の保存.....	10
3. メニュー.....	11
3.1 [ファイル]メニュー.....	12
3.2 [表示]メニュー.....	13
3.3 [検索]メニュー.....	15
3.4 [ヘルプ]メニュー.....	17
3.5 ツールバー.....	18
4. ダイアログ.....	20
4.1 表示チャンネルの設定ダイアログ.....	21
4.2 表示設定ダイアログ.....	23
4.3 表示色の設定ダイアログ.....	25
4.4 検索ダイアログ.....	27
4.5 保存範囲設定ダイアログ.....	29
4.6 バージョンダイアログ.....	30
5. チュートリアル.....	31
5.1 ログファイルを読み込む.....	32
5.2 表示するチャンネルを選択する.....	33
各チャンネル表示の設定をする.....	34
5.3 表示色を変更する.....	35
5.4 ログデータの検索をする.....	36
5.5 ログデータを保存する.....	38
6. メッセージ一覧.....	39

1.はじめに

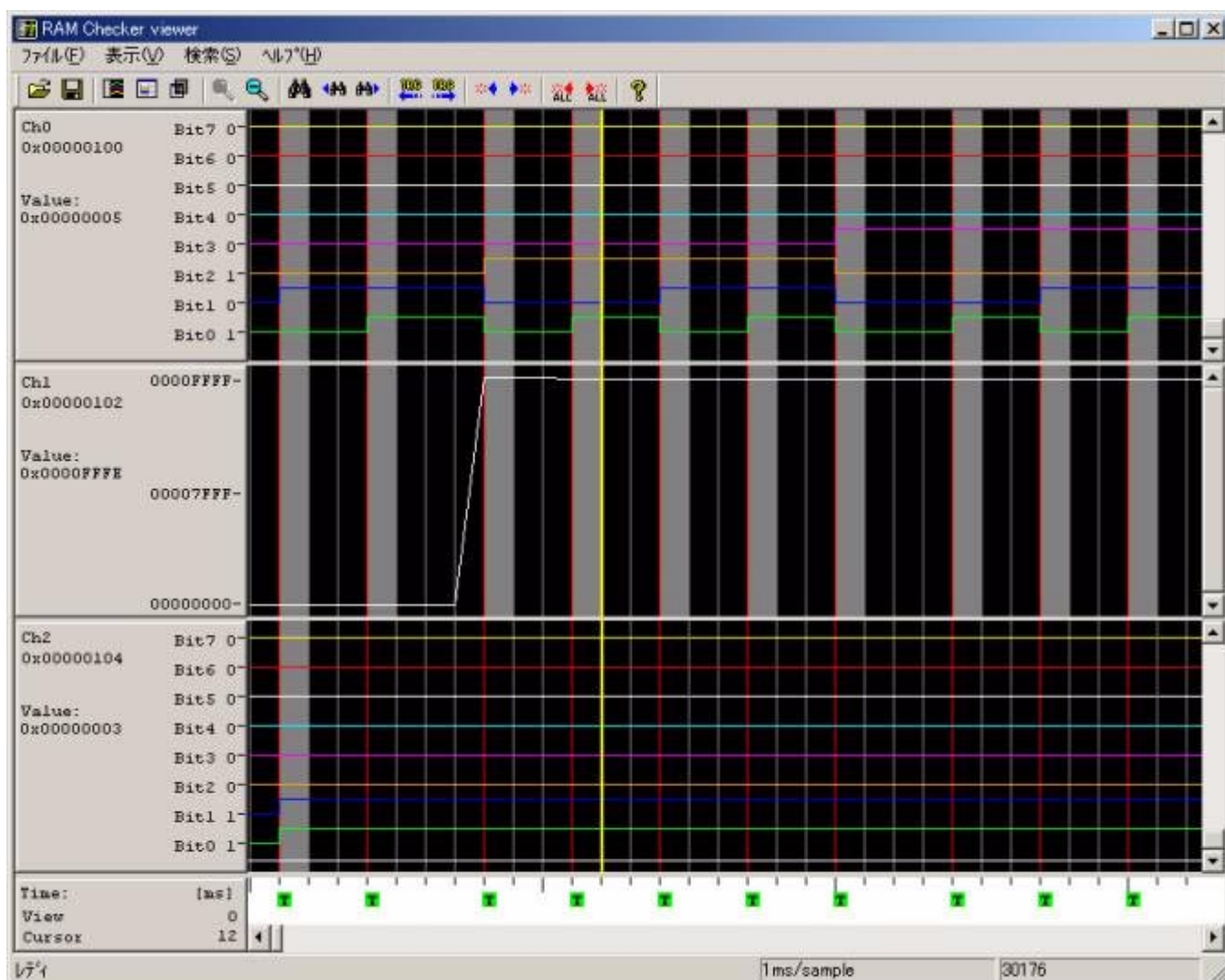
RAM チェッカ Viewer は、Softune Workbench の RAM チェッカのログファイルをグラフ表示するツールです。

RAM チェッカ Viewer の動作環境を以下に示します。

動作環境：

PC	PC - AT
OS	Window98/Me/2000/XP （日本語、英語版対応）
メモリ	64MB 以上の空き容量が必要
HDD	4MB（インストール時）以上の空き容量が必要 64MB（動作 / 保存時）以上の空き容量が必要
ディスプレイ	1024 × 768 256 色以上 推奨
マウス	必須

2. メイン画面



メイン画面

メイン画面では、各チャンネルのデータがグラフで表示されます。表示形式はビット表示、データ値表示、ビット/データ値表示の3種類があります。

ビット表示	データをビットごとにロジアナのイメージで表示します。グラフの縦軸が各ビットを表します。(メイン画面図の上段参照)
データ値表示	データ値を折れ線グラフで表示します。グラフの縦軸がデータ値を表します。(メイン画面図の中段参照)
ビット/データ値表示	ビット表示とデータ値表示を同時に表示します。(メイン画面図の下段参照)

各チャンネルの表示では、左上にチャンネルとアドレス、カーソル位置のデータ値（16 進数）が表示されます。ビット表示の場合はさらに、各ビットの値が縦軸に表示されます。

横軸は、RAM チェック開始時間を 0ms とした経過時間が表されます。1 目盛あたりが RAM チェッカのサンプリング時間になります。

カーソルはデフォルト色の場合、黄色のラインで表示され、カーソルの移動に合わせて経過時間、データ値、ビット値が更新されます。ビット値 / データ値の更新の際、カーソル直前のサンプリング時の値と変わっている場合は、変わっている各数値のみ赤色で表示されます。

カーソルは左右カーソルキー、マウスクリックで時間軸の目盛単位で移動することができます。

複数のチャンネルを表示しているときに横スクロールを行った場合は、表示している全チャンネルがスクロールします。

関連項目

メニュートップ、ツールバー、ステータスバー、表示チャンネルの設定ダイアログ、
表示色の設定ダイアログ

2.1 経過時間表示

経過時間はメイン画面の最下段に表示され、1 サンプルごとに目盛を表示し、先頭の目盛の経過時間 (View) と、現在のカーソル位置がある経過時間 (Cursor) が目盛りの左側に表示されます。



経過時間表示

ズームイン・ズームアウト

[表示] - [ズームイン]、[表示] - [ズームアウト] で目盛りをそれぞれ 2 倍に拡大、1/2 に縮小することができます。初期の表示状態を 100% として、1% ~ 100% まで表示可能です。

関連項目

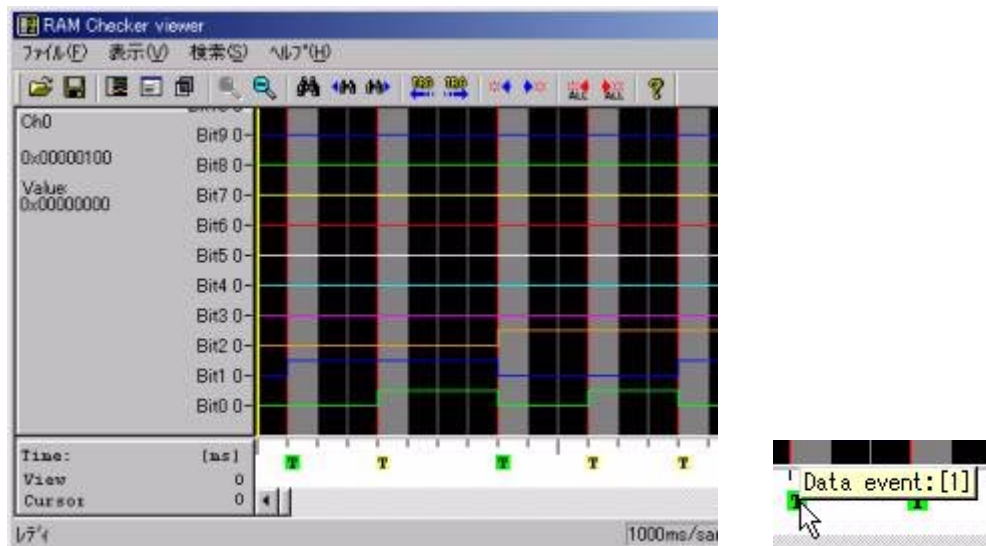
メイン画面、[表示] - [ズームイン] [表示] - [ズームアウト]

2.2 トリガポイント表示

トリガポイントはデフォルト色の場合、赤のラインが表示され、時間軸の下に「T」マークが表示されます。

「T」マークは、命令イベントの場合は黄色、データイベントの場合は緑色で表示されます。

また「T」マーク上にマウスカースルを移動すると、イベントの種類（命令イベント / データイベント）とイベント番号がツールチップで表示されます。



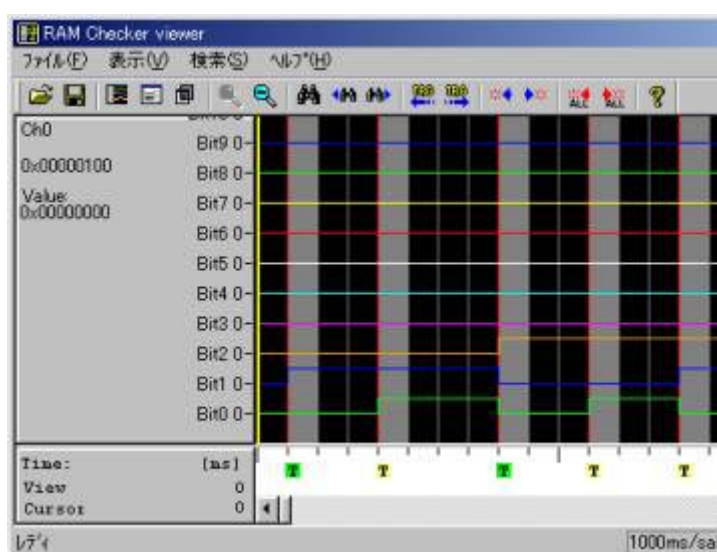
トリガポイント表示

関連項目

検索メニュー、メイン画面、表示色の設定ダイアログ

2.3 データロスト表示

データロストの個所はデフォルト色の場合、グレーの帯が表示されます。
ハードウェア上のデータロストの場合は背景色がグレーになり、データロスト前後のデータは線で結ばれます。またソフトウェア上のデータロストの場合はグレーの帯が表示され、データロスト前後データは線で結ばれません。



(ハードウェアの場合)



(ソフトウェアの場合)

データロスト表示

関連項目

検索メニュー、メイン画面、表示色の設定ダイアログ

2.4 ステータスバー

ステータスバーの左側には、選択されているメニューの説明が表示されます。また、右側には開いているログファイルのサンプリングレートと総サンプル数が表示されます。



ステータスバー

関連項目

[表示]メニュー、メイン画面

2.5 表示状態の保存

RAM チェッカ Viewer 終了時に以下のステータスが保存され、次回起動時に前回終了時の状態が再現されます。

< 終了時に保存されるステータス >

- ・メイン画面サイズ
- ・メイン画面表示位置
- ・色設定
- ・ツールバー/ステータスバー表示の有無

関連項目

[表示]メニュー、表示色の設定ダイアログ

3. メニュー

[ファイル]メニュー

[表示]メニュー

[検索]メニュー

[ヘルプ]メニュー

ツールバー


3.1[ファイル]メニュー

[開く]  (Ctrl+O)

RAM チェッカのログファイルを開き、グラフを表示します。

対応フォーマットを以下に示します。

- ・ SOFTUNE 形式
- ・ CSV 形式

[名前を付けて保存]  (Ctrl+S)

開いているログファイルを SOFTUNE 形式または CSV 形式で保存します。

保存ファイル名を指定した後、保存範囲設定ダイアログが表示されます。

[最近開いたファイル]

開いたログファイルの履歴が表示されます。

ファイルを選択された場合は、[開く]と同じ動作をします。

[終了] (Alt+F4)

RAM チェッカ Viewer を終了します。ファイル保存の確認は行いません。


関連項目

保存範囲設定ダイアログ


3.2[表示]メニュー

[チャンネル]  (Ctrl+G)


表示チャンネルの設定ダイアログが表示されます。
表示するチャンネルの選択や表示設定を行います。

[色設定] 


表示色の設定ダイアログが表示されます。

[ビット表示フィルタ] 

ビット表示フィルタ ON/OFF の切替えを行います。
ビット表示フィルタの設定は、表示設定ダイアログで行います。

[ズームイン]  (Ctrl++)

グラフ表示の時間軸を、2 倍に拡大表示します。

[ズームアウト]  (Ctrl+-)

グラフ表示の時間軸を、1/2 に縮小表示します。

[ツールバー]

ツールバー表示 ON/OFF の切替えを行います。


[ステータスバー]

ステータスバー表示 ON/OFF の切替えを行います。

関連項目

表示チャネルの設定ダイアログ、表示設定ダイアログ、
表示色の設定ダイアログ、ツールバー、ステータスバー

3.3[検索]メニュー

[検索]  (Ctrl+F)


検索ダイアログが表示されます。
検索条件を設定します。

[前方検索]  (Shift+F3)


[検索] で設定した検索条件で、ログデータの前方向検索を行います。
ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

[後方検索]  (F3)


[検索] で設定した検索条件で、ログデータの後方向検索を行います。
ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

[前のトリガポイント]  (Ctrl+Shift+T)

ログデータ内の全てのチャンネルに対して、カーソル位置からトリガポイントの前方向検索を行います。
ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。


[次のトリガポイント]  (Ctrl+T)

ログデータ内の全てのチャンネルに対して、カーソル位置からトリガポイントの後方向検索を行います。
ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

[前のデータロスト]  (Ctrl+Shift+L)


[検索] で指定したチャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロストの前方検索を行います。

ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

[次のデータロスト]  (Ctrl+L)


[検索] で指定したチャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロストの後方検索を行います。

ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

[前のデータロスト (全チャンネル)]  (Ctrl+Alt+Shift+L)

ログデータ内の全チャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロストの前方検索を行います。

ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

[次のデータロスト (全チャンネル)]  (Ctrl+Alt+L)


ログデータ内の全チャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロストの後方検索を行います。

ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

関連項目

検索ダイアログ、トリガポイント表示、データロスト表示

3.4[ヘルプ]メニュー

[トピックの検索]  (F1)

ヘルプの目次を表示します。

[バージョン情報]

バージョンダイアログが表示されます。

関連項目

バージョンダイアログ

3.5 ツールバー

ツールバーの各ボタンと、対応するコマンドは以下の通りです。



[ファイル] - [開く]

RAM チェッカのログファイルを開き、グラフを表示します。



[ファイル] - [名前を付けて保存]

開いているログファイルを SOFTUNE 形式または CSV 形式で保存します。



[表示] - [チャンネル]

表示するチャンネルの選択や表示設定を行います。



[表示] - [色設定]

表示色の設定ダイアログが表示されます。



[表示] - [ビット表示フィルタ]

ビット表示フィルタ ON/OFF の切替えを行います。



[表示] - [ズームイン]

グラフ表示の時間軸を、2 倍に拡大表示します。



[表示] - [ズームアウト]

グラフ表示の時間軸を、1/2 に縮小表示します。



[検索] - [検索]

検索条件を設定します。



[検索] - [前方検索]

[検索]で設定した検索条件で、ログデータの前方向検索を行います。



[検索] - [後方検索]

[検索]コマンドで設定した検索条件で、ログデータの後方向検索を行います。



[検索] - [前のトリガポイント]

ログデータ内の全てのチャンネルに対して、カーソル位置からトリガポイントの前方向検索を行います。



[検索] - [次のトリガポイント]

ログデータ内の全てのチャンネルに対して、カーソル位置からトリガポイントの後方向検索を行います。



[検索] - [前のデータロス]

[検索]コマンドで指定したチャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロスの前方検索を行います。



[検索] - [次のデータロス]

[検索]コマンドで指定したチャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロスの後方検索を行います。



[検索] - [前のデータロス（全チャンネル）]

ログデータ内の全チャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロスの前方検索を行います。



[検索] - [次のデータロス（全チャンネル）]

ログデータ内の全チャンネルに対して、カーソル位置からハードウェア上のデータロスの後方検索を行います。



[ヘルプ] - [トピックの検索]

ヘルプの目次を表示します。

4. ダイアログ

表示チャネルの設定ダイアログ

表示設定ダイアログ

検索ダイアログ

表示色の設定ダイアログ

保存範囲設定ダイアログ

バージョンダイアログ

4.1 表示チャンネルの設定ダイアログ

1つのウィンドウに表示するチャンネルの設定を行います。



表示チャンネルの設定ダイアログ

初期状態では、ログデータに登録されている先頭チャンネルのみ、表示チャンネルリストに設定されています。

その他の登録されているチャンネルは非表示チャンネルリストに登録されています。

初期状態での表示モードは、Bit/Value（ビット / データ値混在表示）です。

チャンネルを表示する


チャンネルを表示する場合は、非表示チャンネルリストで表示するチャンネルを選択後、「<<-」ボタンを押し、表示チャンネルリストに移動させます。

表示チャンネルリストでは、選択している項目の「オプション」欄の設定変更が可能です。チャンネルを選択し「表示設定」ボタンを押すと、表示設定ダイアログが表示され設定変更ができます。

「全表示」ボタンを押すと、全てのチャンネルが表示チャンネルリストに移動し、「全非表示」ボタンを押すと全てのチャンネルが非表示チャンネルリストに移動します。

またメイン画面での表示順序を、表示チャンネルリストで設定することができます。「↑、↓」ボタンで選択しているチャンネルの表示順序を変更します。

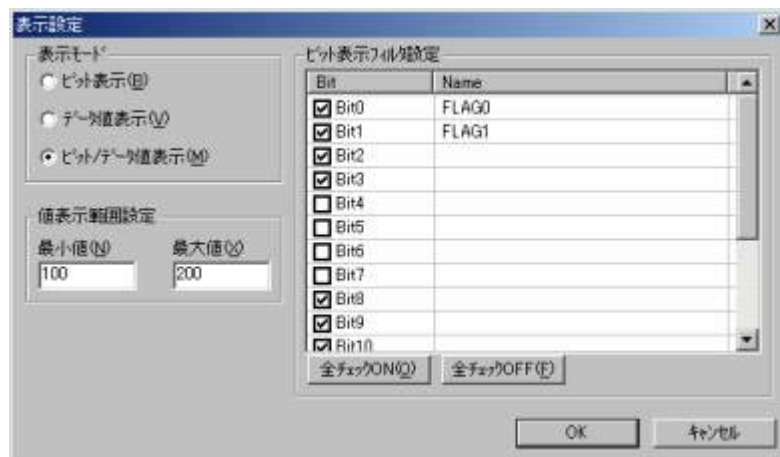
表示チャンネルを非表示にする

表示チャンネルを非表示にする場合は、表示チャンネルリストで非表示にするチャンネルを選択後、「」ボタンを押し、非表示チャンネルリストに移動させます。

本ダイアログで設定した内容は、次回本ダイアログを表示した場合に自動的に設定されます。ただしログファイルを開いた場合は、初期状態の設定になります。

4.2 表示設定ダイアログ

チャンネルごとの表示設定を行います。



表示設定ダイアログ

本ダイアログは、チャンネルごとの表示設定を行うものであり、表示チャンネルの設定ダイアログの「表示設定」ボタンが押されたときに表示されます。

表示モード

表示モードでは「ビット表示」、「データ値表示」、「ビット/データ値表示」の3種類の中から、1つを選択します。

値表示範囲設定

値表示範囲設定は、表示モードでデータ値表示が可能な場合、データ値のグラフ描画範囲を16進数で設定します。

ビット表示フィルタ

ビット表示フィルタ設定リストでは、各ビットのチェックの ON/OFF で表示非表示を設定します。

「全チェック ON」ボタンを押すと、リストに表示されている全ビットのチェックが ON（全て表示）に設定され、「全チェック OFF」ボタンを押すと、リストに表示されている全ビットのチェックが OFF（全て非表示）に設定されます。

また、「Name」カラムをダブルクリックして各ビットに全角で 2 文字、半角で 5 文字の名前を設定することができます。名前が設定されると、メイン画面上のビット名表示が設定された名前で表示されます。

ビット表示フィルタは「ビット表示」または、「ビット / データ値表示」時のみ有効です。

関連項目

メイン画面、[表示]メニュー

4.3 表示色の設定ダイアログ

表示色の設定を行います。



表示色の設定ダイアログ

設定可能な項目とデフォルト色は以下の通りです。

項目	色(R,G,B)	項目	色(R,G,B)
背景	BLACK(00,00,00)	Bit13	WHITE(FF,FF,FF)
グリッド	GRAY(80,80,80)	Bit14	RED(FF,00,00)
カーソル	YELLOW(FF,FF,00)	Bit15	YELLOW(FF,FF,00)
トリガ	RED(FF,00,00)	Bit16	LIME(00,FF,00)
データロス	GRAY(80,80,80)	Bit17	BLUE(00,00,FF)
データ値	WHITE(FF,FF,FF)	Bit18	ORANGE(FF,A0,00)
Bit0	LIME(00,FF,00)	Bit19	MAGENTA(FF,00,FF)
Bit1	BLUE(00,00,FF)	Bit20	CYAN(00,FF,FF)
Bit2	ORANGE(FF,A0,00)	Bit21	WHITE(FF,FF,FF)
Bit3	MAGENTA(FF,00,FF)	Bit22	RED(FF,00,00)
Bit4	CYAN(00,FF,FF)	Bit23	YELLOW(FF,FF,00)
Bit5	WHITE(FF,FF,FF)	Bit24	LIME(00,FF,00)
Bit6	RED(FF,00,00)	Bit25	BLUE(00,00,FF)
Bit7	YELLOW(FF,FF,00)	Bit26	ORANGE(FF,A0,00)
Bit8	LIME(00,FF,00)	Bit27	MAGENTA(FF,00,FF)
Bit9	BLUE(00,00,FF)	Bit28	CYAN(00,FF,FF)
Bit10	ORANGE(FF,A0,00)	Bit29	WHITE(FF,FF,FF)
Bit11	MAGENTA(FF,00,FF)	Bit30	RED(FF,00,00)
Bit12	CYAN(00,FF,FF)	Bit31	YELLOW(FF,FF,00)

色変更するリストの項目を選択し、「色」ボタンを押し、色の編集ダイアログで色の設定を行います。
「初期設定」ボタンを押すと、デフォルト色に戻すことができます。



色の編集ダイアログ

関連項目

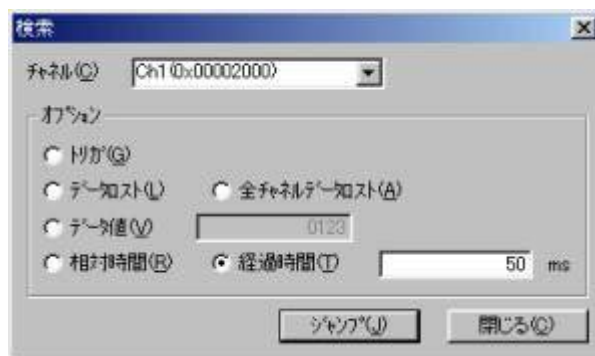
[表示]メニュー

4.4 検索ダイアログ

特定のデータ、トリガポイント、データロストの検索および、時間指定検索を行います。



検索ダイアログ：トリガ、データロスト、データ値、相対時間指定時



検索ダイアログ：経過時間指定時

初めにコンボボックスで検索を行うチャンネルを指定します。コンボボックスには、表示されているチャンネルが登録されます。

トリガ検索

トリガの検索を行う場合は、「トリガ」をチェックし、前方 / 後方ボタンを押します。

データロスト検索

チャンネルを指定してデータロストの検索を行う場合は「データロスト」、チャンネルを指定しないでデータロストの検索を行う場合は「全チャンネルデータロスト」をチェックし、前方 / 後方ボタンを押します。

データ値検索

データ値で検索を行う場合は、「データ値」をチェックし、検索するデータ値（16 進数）を指定して前方 / 後方ボタンを押します。指定したチャンネルによって、入力できるデータ値の範囲が変わります。

相対時間ジャンプ

カーソル位置からの相対時間でジャンプする場合は、「相対時間」をチェックし、相対時間（10 進数）を指定して前方 / 後方ボタンを押します。

トリガ、データロスト、データ値、相対時間指定時は「ジャンプ」ボタンは表示されず、「前方」/「後方」ボタンが表示され、現在カーソルのある位置から、前方/後方検索を行います。

経過時間ジャンプ

RAM チェック開始位置からの経過時間でジャンプする場合は、「経過時間」をチェックし、経過時間(10 進数) を指定して「ジャンプ」ボタンを押します。

経過時間指定時は、前方 / 後方ボタンは表示されません。

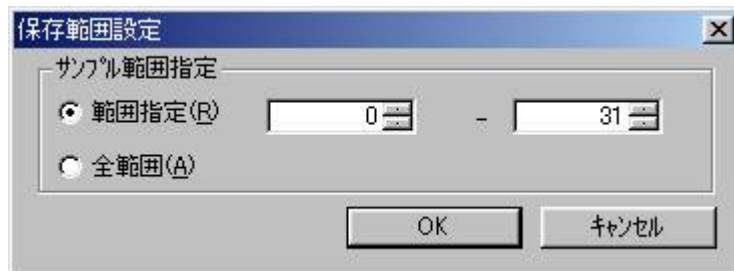
本ダイアログで設定した内容は、次回本ダイアログを表示した場合に自動的に設定されます。ただし、RAM チェッカ Viewer 自体を再起動した場合は、デフォルトの設定 (「トリガ」にチェックが付き、時間およびデータ値は 0) になります。

関連項目

トリガポイント表示、データロスト表示、[検索]メニュー

4.5 保存範囲設定ダイアログ

ログデータの保存時に表示され、保存範囲の設定を行います。



保存範囲設定ダイアログ

保存範囲を指定する場合

「範囲指定」をチェックし、サンプル番号を入力し「OK」ボタンを押します。
ただし、保存範囲はファイル形式に関わらず、SOFTUNE 形式上でのブロック単位となります。
(下記例を参照)
例) SOFTUNE 形式のフォーマットで 1 ブロックあたり 16 サンプルの場合は、開始サンプル番号は 16 の整数倍、終了サンプル番号は 16 の整数倍 1 のサンプル番号をそれぞれ入力します。

全範囲保存する場合

全範囲保存する場合 (保存範囲を指定しない場合) は、「全範囲」をチェックし、「OK」ボタンを押します。

関連項目

[ファイル]メニュー

4.6 バージョンダイアログ

RAM チェッカ Viewer のバージョンが表示されます。



バージョンダイアログ

関連項目

[ヘルプ]メニュー

5. チュートリアル

ここでは、RAM チェッカ Viewer の使用方法を説明します。

- ログファイルを読み込む
- 表示するチャンネルを選択する
- 各チャンネル表示の設定をする
- 表示色を変更する
- ログデータの検索をする
- ログデータを保存する

5.1 ログファイルを読み込む

1. [ファイル]-[開く]で「ファイルを開く」ダイアログを表示します。
2. 「ファイルを開く」ダイアログで RAM チェッカのログファイル（SOFTUNE 形式または CSV 形式）を選択し、「開く」ボタンを押します。
3. メイン画面上に、ログファイル内の最初のチャンネルのデータが表示されます。

メイン画面上にログファイルをドロップして開くことも可能です。
初期状態では、「ビット/データ値混在表示」で表示されます。

関連項目


[ファイル]-[開く]

5.2 表示するチャネルを選択する

ログファイルを開いた後、表示するチャネルを選択することができます。

1. [表示]-[チャネル]を実行し、「表示チャネルの設定」ダイアログを表示します。

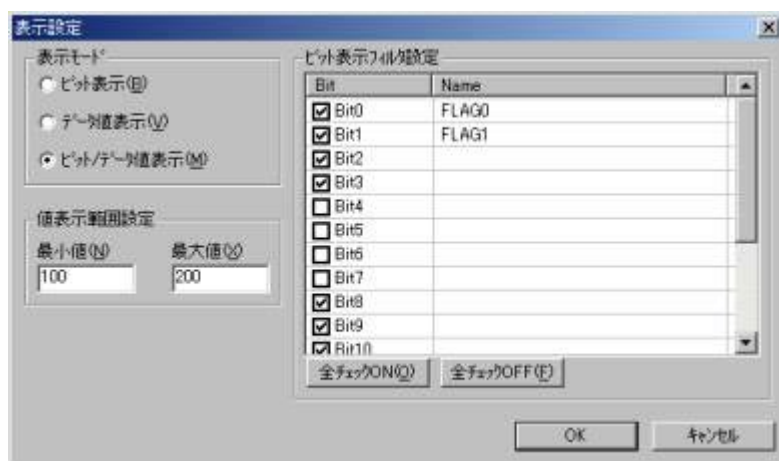


2. 右側の非表示チャネルリストから、表示したいチャネルを選択した後  ボタンを押し、表示チャネルリストに追加します。
3. 設定が完了したら、「OK」ボタンを押して本ダイアログを閉じます。

各チャンネル表示の設定をする

表示するチャンネルを選択した後、表示モード、表示するビットの選択、表示するデータ値の範囲を設定するときは、「表示設定」ダイアログを表示します。

1. 「表示チャンネルの設定」ダイアログの表示チャンネルリストで、設定を変更したいチャンネルを選択し「表示設定」ボタンを押します。
2. 「表示設定」ダイアログが表示されます。



3. 設定が完了したら、「OK」ボタンを押して閉じます。

関連項目

[表示]-[チャンネル]、[表示]-[ビット表示フィルタ]、表示チャンネルの設定ダイアログ、
表示設定ダイアログ

5.3 表示色を変更する

1. [表示]-[色設定]を実行し、表示色の設定ダイアログを表示します。



2. 変更したい項目を選択し「色」ボタンを押すと、色の編集ダイアログが表示されます。



3. 変更する色が決まったら、OK ボタンを押します。

関連項目

[表示]-[色設定]、表示色の設定ダイアログ

5.4 ログデータの検索をする

トリガポイントを検索する

1. [検索]-[検索]を実行し、検索ダイアログを表示します。



2. 「トリガ」をチェックし、「前方」または「後方」ボタンを押します。
3. ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

データロストを検索する

1. [検索]-[検索]を実行し、検索ダイアログを表示します。
2. 「データロスト」をチェックし、「前方」または「後方」ボタンを押します。
3. ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

「データロスト」をチェックした場合は、指定したチャンネルのみの検索となります。全チャンネルを検索する場合は、「全チャンネルデータロスト」をチェックします。

データ値で検索する

1. [検索]-[検索]を実行し、検索ダイアログを表示します。
2. 「データ値」をチェックし、検索するデータ値（16進数）を指定して、「前方」または「後方」ボタンを押します。
3. ヒットした場合は、そのサンプルにカーソルが移動します。

相対時間ジャンプ

1. [検索] - [検索] を実行し、検索ダイアログを表示します。
2. 「相対時間」をチェックし、ジャンプする時間の幅（10 進数）を指定して、「前方」または「後方」ボタンを押します。

経過時間ジャンプ

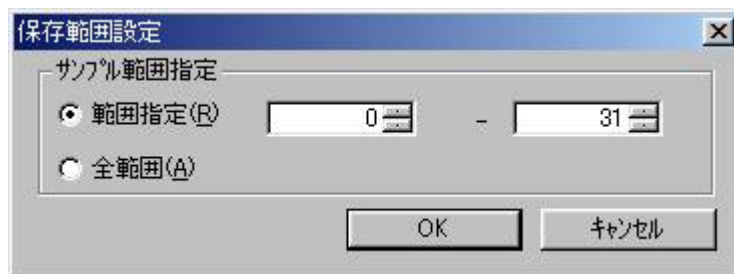
1. [検索] - [検索] を実行し、検索ダイアログを表示します。
2. 「経過時間」をチェックし、ジャンプ先の経過時間（10 進数）を指定して、「ジャンプ」ボタンを押します。

関連項目

[検索] - [検索]、検索ダイアログ

5.5 ログデータを保存する

1. [ファイル]-[名前を付けて保存]を実行し、「名前を付けて保存」ダイアログを表示します。
2. 保存するファイル名を設定し、「保存」ボタンを押します。
3. 「保存」ボタンを押すと、保存範囲設定ダイアログが表示されるので、保存するサンプルの範囲を設定します。



保存範囲はファイル形式に関わらず、SOFTUNE 形式上でのブロック単位となります。

例) SOFTUNE 形式のフォーマットが1ブロックあたり16サンプルの場合、開始サンプル番号は16の整数倍、終了サンプル番号は16の整数倍-1のサンプル番号をそれぞれ入力します。

4. 範囲を設定したら、「OK」ボタンを押して保存を開始します。

関連項目

[ファイル]-[名前を付けて保存]、保存範囲設定ダイアログ

6. メッセージ一覧

RAM チェッカ Viewer で表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	説明
"ファイルのオープンに失敗しました。"	<p>指定されたログファイルの読み込みまたは保存に失敗しました。</p> <p><メモ> 読み込み時は指定されたファイルが存在しているか、保存時は指定されたファイルが読み取り専用になっていないか確認してください。</p>
"メモリを確保できませんでした。"	<p>ログデータを読み込むための、PC 上のメモリを確保できませんでした。</p> <p><メモ> 起動中の他のアプリケーションを終了してください。</p>
"見つかりませんでした。"	<p>検索を行った結果、検索条件を満たすサンプルがありませんでした。</p>
"ファイルの保存に失敗しました。"	<p>ログデータの保存時に、ファイルの書き込みに失敗しました。</p> <p><メモ> 指定されたファイルが他のアプリケーションでロックされていないか確認してください。</p>
"保存しました。"	<p>ログデータの保存が完了しました。</p>
"このバージョンのファイルは読めません。最新の Viewer を入手してください。"	<p>指定されたログファイルは、本 Viewer のバージョンでは読込めません。</p> <p><メモ> 最新版の RAM チェッカ Viewer を入手してください。</p>
"保存するサンプルの開始番号は n の整数倍、終了番号は n の整数倍-1 に設定してください。"	<p>ログデータの保存範囲設定が、ブロック単位での範囲指定になっていません。</p> <p>n はログファイルの SOFTUNE 形式上の、1 ブロッ</p>

	<p>クあたりのサンプル数です。</p> <p><メモ> ログデータの保存範囲設定は、ファイル形式に関わらず SOFTUNE 形式上の、1 ブロックの単位で行います。 ログデータを保存する</p>
"表示するチャンネルありません。"	<p>表示するチャンネルがありません。</p> <p>表示するチャンネルを選択する</p>
"検索するチャンネルが表示されていません。"	<p>検索条件で設定したチャンネルが表示されていません。</p>